ようこそ！夢の本棚へ

発行所：松居直コレクションプロジェクト
代　表：金戸 美紀子
事務局：石川県小松市
小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】①絵本の楽しさを伝える〈親子読書の奨励〉②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える〈絵本文化の研究〉③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える〈絵本文化の継承〉

声の文化と絵本 ⑥

～子どもにとって言葉という文化はどういうものか～

言葉が分からない

◆小渕さんの会議（「子供の未来と世界について考える懇談会」）がありました後で、たまたまその後会った4人が「今の小学校1年生の国語の教科書を読んでも、あれじゃ言葉が分からないね」ということを感じたんです。一人は谷川俊太郎さん。もう一人は大岡信さん、それから画家の安野光雅さん。この本（『にほんご』福音館書店刊）の絵は、全部描いてくださったんです◆一番最初の所を読んでみますと―「わたし、かずこ。ないたり、ほえたり、さえずったり、こえをだすいきものはたくさんいるね。けれど、ことばをはなすことができるのはひとだけだ。かずこもあかちゃんのころは、ことばをはなせなかった。でもいまはもうはなせる。あさがくるとみんなおはようっていうね。おはようっていうのはきもちがいいなあ。ひとのおはようとおうむのおはようはおんなじかな。ちがうかな」って書いてあるんですよ。

大人に読んでほしい本

◆これは面白い問題です。人のおはようとオウムのおはよう。オウムのおはようは、聞いたことありますか。私は子どもの頃、家にオウムがいました。何となく違いますね◆そういうことから始まっているんですが、たとえば、文字というものがどういうものなのかということも、ここに書いてあるんです。それから、気持ちというものが、言葉とどういう絡みがあるのか。あるいは、書くとか読むとか、民族によっても言葉は違うということ。なぜそういうことが出てくるのかなど、いろんなテーマで書いてあります◆だから、大人の方がぜひ読んでくださると〝日本語〟というものがどういうものなのかーそれが、かなりお分かりいただけるだろうと思うんですね。

学問的にも評価される

◆私が大学で講義をする時に、これを使って言葉ってものを考えてもらうようにしてましたけども、この本が出ました翌々月だったか、岩波書店で出てる『ちそう』という学術的な専門書があるんです。あれに、当時、東京大学の言語学の市民教授をしてらした国広哲弥先生が、長文の論文を寄せられてびっくりしました◆「『にほんご』という本に、どういう言葉が載ってるか」というのを書いてくださった中に「現在の国際的な言語学の名前は、この中にだいたい取り上げられてる」って書いてあったんです。当たり前に言葉ってものを考えた時に、それがたまたま学問的にも重なっていたということだと思います。

言葉という文化

◆もう一つは、ここに全日本市立図書館連盟の月刊の「PTA新聞」ってのがあります。私は2ヶ月に1回ずつ、絵本の紹介を連載しているんです。絵本てものをまとめて語るってのはとっても難しい。「1冊、1冊書いてほしい」と言われたもんですから、今も書いています。75冊になるでしょうか。それを叔父がまとめてくださったんですけど、この本の最後の論文が「絵本と子どもの心」って論文です。平成3年の時に日本小児科医会の第10回の全国の研修会の時の講演がそのまま出てるんです◆これは一度読んでみていただきたいと思います。子どもにとって、言葉って文化がどういうものなのか。それをもう一度、ここで確かめていただければいいんじゃないかと思いますし、皆さんが絵本を子どもに読んでおあげになる時に、もしどういう本を選ぼうかとお思いになるんでしたら、現在店頭に出ている新しい本よりも、ずーっと読み継がれている本から選ばれるといいと思います。

（つづく）